鹿児島県菱刈町における 高齢者の食生活に関するアンケート調査

倉元綾子・土井順子
(鹿児島県立短期大学生生活学科)

The Dietary Habits of the Aged in Hishikari, Kagoshima Prefecture

Ayako Kuramoto and Junko Doi
Kagoshima Prefectural College, 1-52-1, Shimo-Ishiki, Kagoshima, 890-0005
〒890-0005 鹿児島市下伊敷1-52-1

We investigated the dietary habits of the aged by using questionnaires in Hishikari, Kagoshima Prefecture, in December 1996.

The results were as follows:

- (1) They eat meals regularly and early and use 15 to 30 minutes. They eat meals with their spouse or eat alone. Purchasing and cooking the food are done by their spouses or themselves.
- (2) They are careful about what they eat and the nutrition. They tend to eat a lot of vegetables, seaweed and lighty-seasoned food. They feed on rice as the staple food. They buy already cooked food or instant food once or twice a week, a month, or none. They often exchange food that they make or vegetables with their neighbors.
- (3) They are satisfied with their dietary habits, which includes the flavor and the kinds of the food. They have no food preferences, enjoy the meals, have a good appetite, eat in a good atmosphere, and they don't eat out.

1. はじめに

現在、我が国は急速に高齢社会になってきている。1997年推計人口では65歳以上の高齢者は1949万人、高齢化率15.5%である¹⁾。このような状況において、健康で長寿を保つことは多くの人々の願いである。そのための重要な課題として食生活の問題がある。

鹿児島県は日本のなかでも従来から高齢化率が高く、1997年3月現在の推計で全国第4位、20.8%である²⁾。これは、2005年の全国の推計高齢化率19.6%よりも高い³⁾。

さらに、本調査が対象とした菱刈町は高齢化率28.5%であり、鹿児島県のなかでも高齢化が進んでいる地域で

ある⁴⁾。これは2030年の全国の推計高齢化率28.0%と2035年の29.0%の中間に位置する高い水準である⁵⁾。加えて、菱刈町ではこれまでに高齢者の食生活について調査が行われたことがない。

以上のようなことから、将来における日本の高齢者の食生活状況についての示唆をえるとともに、食生活の向上と改善に資するために、鹿児島県菱刈町の高齢者の食生活を調査したので、これについて報告し検討したい。

なお、結果の比較にあたっては高齢化の進んでいない都市部・鹿児島市で1944年に実施した調査を用いた。

2. 調査方法

調査は1996年12月、質問紙法、留置法で行った。

内容は主として食生活についてであり、そのほかに健康、経済状態、日常生活についても合わせて調査した。

調査対象者は65歳以上の高齢者250人、有効回収数187票、回収率74.8%であった。

結果は単純集計し、平均値の差の検定を行った。

鹿児島市調査は1994年12月にはほぼ同様の内容で行った。調査対象者は65歳以上の高齢者350人、有効回収数296票、回収率84.6%であった。

対象者の属性は表1に示すとおりである。

菱刈町の高齢者において特に注目すべき点は、高齢者核世帯が3/4に及ぶこと、女性では無配偶者が半数を超えていること、その結果、男性では有配偶で一世帯世帯（主として夫婦世帯）の場合が多く、女性では無配偶で独居の場合が多いことである。

この結果は鹿児島県が1995年の高齢者夫婦のみ世帯11.4%（全国6.3%）、単身高齢者世帯11.1%（全国5.0%）で、いずれも全国一であることと照応し⁶⁾、鹿児島県全体の値よりもさらに高い水準である。また、全国平均では65歳以上の高齢者の場合、56.4%が子と同居しているのとは著しく異なっている⁷⁾。

なお、一世帯世帯の場合、夫婦二人暮らしあるいは兄弟姉妹との同居などが考えられるが、夫婦世帯が圧倒的に多い。したがって、以下では一世帯世帯を夫婦世帯と表す。

3. 結果および考察

(1) 菱刈町の概要

菱刈町は、鹿児島県薩摩地方北部に位置し、総面積はおおよそ100km²である。周囲を山に囲まれ、町の中心部を川内川（総延長137km、菱刈町19km）が東西に貫いて流れる。流域には盆地が形成され、肥沃な耕地（600haの水田）となっている。そのため、菱刈町は鹿児島県における重要な稲作地帯で、「伊佐米」の産地である。また、近年では「金山ネギ」も特産物として生産される

ようになっている。このように農業は町の基幹産業であり、農業に従事する割合は28%である⁸⁾。これは、1995年の農業就業人口が全国で5.3%、九州で9.1%であるという値に比べ、きわめて高い⁹⁾。

菱刈町の人口は1995年10月現在、10,621人、65歳以上の高齢者は3,029人で、高齢化率28.5%である¹⁰⁾。これは、平均寿命の伸び、生産年齢層の流出、出生者数の減少などによる。さらに、1955年から1995年までの40年間に人口が41.8%減少し¹¹⁾、過疎化が進行したことによって、高齢化に拍車がかかっている。

一方、鹿児島市は県庁所在地で、1995年には人口54万人、高齢化率12.8%であった¹²⁾。

(2) 健康への関心および日常生活

まず、食生活と深く結びついている健康に関する意識について調査した。対象者の83.9%が、「非常に健康」または「まあまあ健康」と回答していた。さらに、何か健康のために心がけている割合は86.1%であった。その詳細は表2に示すとおりである。栄養・食事、睡眠・休養、運動、規則正しい生活を送ることに対して大きい注意を払っていることがわかった。鹿児島市と比較して有意差はみられなかった。

国民生活基礎調査特殊報告（1989年）によると、高齢者は、規則正しい食事80%、睡眠70%、腹八分め60%、うす味55～60%、バランスのとれた食事50～55%、運動30%、レクリエーション25%を重要視する傾向がある¹³⁾。また、国民栄養調査によると、60歳以上の高齢者は栄養・運動・休養バランス、よくからだを動かす、に努めている割合が他の年齢層よりも多い¹⁴⁾。本調査の結果は、これとよく一致している。また、55.3%が運動をしており、全国調査（60歳以上）の値31.0%¹⁵⁾よりはるかに高かった。これは運動習慣のある場合、食事バランスが良好であるという1990年国民栄養調査の結果などを考えあわせると、非常に好ましい結果であった¹⁶⁾。

次に、高齢者の日常の仕事を検討した。表3に示すよ

表1 調査対象者の属性

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
平均年齢(歳)	74.3	72.7		75.5	72.9		73.3	72.3	
男女比	—	—		52.1%	44.3%		35.1%	64.9%	
有配偶者	61.9%	53.0%		84.2%	38.4%	***	76.9%	40.1%	***
独居	25.8%	24.7%		8.9%	45.4%	***	8.7%	33.3%	***
夫婦世帯	46.9%	40.5%		65.4%	26.7%	***	58.7%	30.7%	***

*** p<0.01, ** p<0.05, * <0.10

表2 健康への心がけ（複数回等）

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=161)	鹿児島市 (n=275)	有意差	男 (n=91)	女 (n=70)	有意差	男 (n=95)	女 (n=180)	有意差
栄養・食事	77.0%	66.2%		75.8%	78.6%		52.6%	73.3%	**
睡眠・休養	63.4%	75.3%		62.6%	64.3%		68.4%	78.9%	
体操や散歩などの運動	55.3%	54.2%		59.3%	50.0%		57.9%	52.2%	
規則正しい生活	46.6%	56.7%		45.1%	48.6%		55.8%	57.2%	
無回答	0.6%	7.3%	***	0.0%	1.4%		9.5%	6.1%	

*** p<0.01, ** p<0.05, * <0.10

表3 日常の仕事（複数回等）

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
家事一般	57.2%	57.8%		40.6%	76.7%	***	23.1%	76.6%	***
留守番	8.6%	17.6%	**	6.9%	10.5%		14.4%	19.3%	
孫の世話	2.7%	9.8%	***	2.0%	3.5%		2.9%	13.5%	***
庭・住居の手入れ	52.4%	41.2%		50.5%	54.7%		43.3%	40.1%	
配偶者の世話	3.7%	12.2%	***	2.0%	5.8%		7.7%	14.6%	*
家業の手助け	15.5%	9.1%	*	18.8%	11.6%		14.4%	6.3%	**
畑仕事・農業	34.2%	12.8%	***	44.6%	22.1%	**	19.2%	9.4%	**
なにもしていない	9.1%	8.8%		8.9%	9.3%		14.4%	5.7%	**
その他	16.6%	11.5%		18.8%	14.0%		16.3%	8.9%	*
無回答	3.7%	0.0%	***	3.0%	4.7%		0.0%	0.0%	

*** p<0.01, ** p<0.05, * <0.10

うに、男性では、庭・住居の手入れ、畑仕事・農業、家事一般が上位にあげられた。一方、女性では、家事一般が最も高く、次いで、庭・住居の手入れ、畑仕事・農業の順であった。男女を比較すると、女性には家事が、男性には農業が有意に多かった。また、鹿児島市に比べ、農業が有意に多かった。

表4は日常のつきあいについての調査結果を示したものである。ボランティア活動を除くすべての項目で高い値を示した。鹿児島市に比べ、友だちつきあい、近所づきあいが有意に多かった。

この結果は都市部より町村部の方が近所づきあいが活発であるという一般的傾向とよく一致していた¹⁷⁾。

以上のことから、菱刈町の高齢者は活動的な日常生活を営んでいることが示唆された。

(3) 食生活状況

次に食生活の状況について検討した。

1) 食事の摂取状況

まず、食事の摂取状況を調べたところ、朝昼夕いずれも97.9%が摂取しており、ほぼ全員が摂取していた。これは鹿児島市の結果と同様であった。高齢者（60歳以上）

では朝食をきちんと食べる割合が高いという全国的な調査の結果を裏付けている¹⁸⁾。

また、菱刈町の高齢者は25.7%が間食を摂取しており、鹿児島市の14.9%に比べ有意に多かった。これは、農業などの仕事に従事するものも少なくないため、必要な休息やエネルギー補給として間食をとっていると考えられる。

2) 食事摂取の時刻および食事に要する時間

食事を摂取する時刻について調査したところ、朝食は7時台（65.2%）、昼食は12時台（84.5%）、夕食は18時台（61.0%）に最も集中した。昼食を摂取する時間帯にはばらつきが少なく、朝食、夕食ではやや摂取の時間帯に広がりが見られる。これを鹿児島市の結果と比較すると、菱刈町では全体的に食事の摂取時刻が早く、時間帯も集中していた。これを1992年の東京での20～69歳の主婦または女性を対象とした調査と比較すると、菱刈町では朝食の摂取時刻が7時台に集中し、夕食の時刻は約1時間早く、しかも集中度が高かった¹⁹⁾。

朝、昼、夕の食事に要する時間については、いずれも15～29分が最も多く、朝食の63.1%、昼食の64.2%、夕

表4 日常のつきあい（「している」、「どちらかといえばしている」の合計の割合）

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
子どもとの交流	65.2%	91.6%	***	64.4%	66.3%		91.3%	91.7%	
友だちつきあい	87.7%	84.5%		86.1%	89.5%		78.8%	87.5%	
親戚つきあい	79.1%	87.8%		74.3%	84.9%		87.5%	88.0%	
近所つきあい	89.8%	50.3%	***	85.1%	95.3%		45.2%	53.1%	
ボランティア活動	37.4%	30.7%		40.6%	33.7%		37.5%	27.1%	
ニュースへの関心	85.0%	92.9%		83.2%	87.2%		97.1%	90.6%	

***p<0.01, **p<0.05, *p<0.10

食では49.2%であった。朝食はやや短い傾向があり、夕食はやや長い傾向がみられ、32.6%が30～44分であった。また、女性のほうが男性よりもゆっくりと時間をかけて食事する傾向がみられた。鹿児島市調査の夕食に要する時間と、菱刈町のそれとの間に有意な差はみられなかった。これは、東京では20～30分と30分～1時間がそれぞれ約40%であったのに比べ、食事に要する時間が短い傾向にあった²⁰⁾。一般に地方においては都市部に比べ食事時間にゆとりがあると考えられているが、この結果はそれを覆すものであった。今後の検討課題としたい。

3) 一緒に食事をする人および食事内容

一緒に食事をする人について調べた。朝食、昼食、夕食全体で、配偶者と一緒に食事をする人が56.0%、同居の家族と食事をする人が12.1%であった。また、29.9%は一人で食事をしていて、これは配偶者の有無、居住形態など前述した属性の特徴と関連があり、男女の間に違いがみられた。男性では配偶者と食事をする人が多く、女性では一人で食事をする人が有意に多かった。この傾向は鹿児島市でもみられた。

さらに、配偶者や同居の家族と一緒に食事をする場合の食事内容について調べたところ、ほとんどが「同じ」であった。これは、鹿児島市と同様であり、全国の傾向と変わらなかった²¹⁾。

4) 買い物

食料品の買い物について、そのおもな担い手と頻度、買い物をするところについて調査した。その結果、買い物の担い手は、本人53.5%、配偶者41.2%で、男性では73.3%が配偶者、女性では84.9%が本人で、男女の間に大きな差が見られた。また、買い物の頻度は週3,4回が42.3%で最も多く、次いで週1,2回34.8%であった。買い物をするところとしては、スーパーマーケットが78.1%で最も多く、個人商店44.9%、生協・Aコープ11.8%、走るスーパー9.1%の順であった。（鹿児島市ではこの項

目については調査していない。）

この結果は全国の主婦を対象とした調査のうち、60歳以上ではスーパーマーケットで買物をする人が50.0%～77.7%であるという結果よりも高い割合である²²⁾。

以上のことは、農村地帯においても食料を購入する割合が高くなってきていることを示唆している。また、以前は自給自足的に営まれていた農村地帯の食生活も、自動車の所有により行動範囲が広がったこと、食品流通形態の変化などから、次第に様相が変わってきていると思われる。

5) 食事を作る人

次に、食事を作る人について尋ねたところ、本人49.7%、配偶者44.9%であった。ここにも男女で大きな違いがみられ、男性では82.2%が配偶者であるのに対し、女性では93.0%が本人であった。同様の傾向は鹿児島市の調査でも観察された。

これは高齢者における家事分担に関する調査の結果、女性では78.3%がほとんど自分で食事を作っているのに対し、男性ではわずかに13.1%にすぎないという東京都の調査などとも対応している²³⁾。

6) 主食

次に、主食を調べたところ、圧倒的に「ごはん」が多かった（朝食86.6%、昼食86.6%、夕食93.6%）。これは、菱刈町が稲作地帯であることを反映している。また、高齢者では圧倒的にごはんが多いという国民栄養調査の結果²⁴⁾や他の調査結果²⁵⁾とよく一致した。

なお、朝食ではパンが10.7%、昼食ではパン・めん類が合わせて10.1%であった。鹿児島市でもほぼ同様の傾向であったが、朝食にパンを食べる割合は菱刈町より多かった。これは小都市や町村に比べ、都市部では朝のパン食が多いという全国調査の結果と一致していた²⁶⁾。

7) 食生活で気をつけていること

前述のように、菱刈町の高齢者は、健康を願い、食生

表5 食生活で気をつけていること（複数回答）

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
野菜を多く食べる	85.0%	75.7%	*	87.1%	82.6%		69.2%	79.2%	
海草を週3回以上	74.9%	55.4%	***	75.2%	74.4%		51.9%	57.3%	
うす味	73.3%	65.9%		70.3%	76.7%		51.9%	73.4%	**
規則正しい食事	70.1%	56.8%	*	67.3%	73.3%		59.6%	55.2%	
牛乳・乳製品を毎日	63.6%	42.2%	***	62.4%	65.1%		41.3%	42.7%	
手づくり、旬のもの	61.0%	52.4%		47.5%	76.7%	***	42.3%	57.8%	*
肉より魚	55.1%	61.8%		50.5%	60.5%		57.7%	64.1%	
肉、魚、卵を毎日	51.3%	37.5%	**	50.5%	52.3%		37.5%	37.5%	
沢山の種類の食品	36.9%	33.1%		39.6%	33.7%		30.8%	34.4%	
いも類を毎日	22.5%	22.6%		18.8%	26.7%		26.0%	20.8%	
その他	0.5%	2.0%		1.0%	0.0%		1.9%	2.1%	

***p<0.01, **p<0.05, *<0.10

活・栄養を重視していることから、食生活において気をつけていることについて調査した。

その結果、表5に示すように、ほとんどの項目で高い値を示した。男女を比較すると、女性では手づくりのものや旬のものを取り入れる割合が有意に多かった。野菜を多く食べる、海草を週3回以上、規則正しい食事、牛乳・乳製品を毎日食べる、肉・魚・卵を毎日食べる、の項目で菱刈町が鹿児島市に比べて高い値を示した。

この結果は、60歳以上の高齢者では、栄養バランスに気をつけている人が60.5%、いろいろな食事をとるようにしている人が67.7%という国民栄養調査の結果²⁷⁾や、二世帯住宅の親世帯で食事を作るときに気をつけていることとして、野菜を多くつかう73.3%、栄養バランスに注意する65.0%、塩分を控えめにする62.7%、旬の食材を多く使う59.0%、脂肪分を控えめにする50.2%という結果²⁸⁾と同様の傾向を示すものであった。

以上のことから、菱刈町の高齢者は食生活に対し、より高い注意と関心を払っていることがわかる。

8) 惣菜やインスタント食品の利用

惣菜やインスタント食品の利用頻度を調べた。週1,2回28.9%、月1,2回28.3%、使わない21.4%の順であった。男性と女性との間、菱刈町と鹿児島市との間に有意な差はみられなかった。また、この結果は全国的な傾向と同様であった²⁹⁾。

次に、インスタント食品を利用すると回答した者にその理由をきいた。表6に示すように、調理が簡単で手間が省けるというのが約半数で最も多く、全国の調査結果（45.6%）と類似した傾向であった³⁰⁾。男性に比べ女性では経済的であると考えた割合が有意に多かった。とはいえ、鹿児島市に比べると、菱刈町では、簡単で手間が省けるからという割合は有意に少なく、家族が好むからという割合が多かった。

以上のような結果は、食品流通の変化やマスコミの発達などによって農村地帯でも加工食品の利用が増加していることを示唆している。食生活における地域特性が希薄になり、都市部と農村部の間の食生活の均質化が進ん

表6 惣菜・インスタント食品を利用する理由

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=125)	鹿児島市 (n=203)	有意差	男 (n=68)	女 (n=57)	有意差	男 (n=66)	女 (n=137)	有意差
簡単、手間が省ける	46.4%	70.0%	***	51.5%	40.4%		68.2%	70.8%	
おいしい	17.6%	11.3%		17.6%	17.5%		9.1%	12.4%	
家族が好む	10.4%	4.4%	**	11.8%	8.8%		4.5%	4.4%	
経済的	6.4%	7.9%		1.5%	12.3%	**	4.5%	9.5%	
栄養的	1.6%	2.5%		2.9%	0.0%		3.0%	2.2%	
その他	9.6%	3.9%	*	8.8%	10.5%		6.1%	2.9%	
無回答	13.6%	6.9%	*	8.8%	19.3%		9.1%	5.8%	

***p<0.01, **p<0.05, *<0.10

表7 食事や野菜などのやりとり

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
毎日	1.6%	1.2%		0.0%	3.5%	**	1.0%	1.3%	
週3, 4回	10.7%	2.4%	***	9.9%	11.6%		1.0%	3.1%	
週1, 2回	20.3%	13.9%		18.8%	22.1%		12.0%	14.8%	
月1, 2回	33.2%	23.3%	**	32.7%	33.7%		18.8%	25.8%	
しない	21.4%	57.4%	***	23.8%	18.6%		66.3%	52.6%	
無回答	12.8%	1.9%	***	14.9%	10.5%		1.0%	2.3%	

*) 鹿児島市の値は「食事のやりとり」, 「野菜, 魚などのやりとり」の平均 *** p<0.01, ** p<0.05,

* <0.10

でいることを示すものである。

9) 食事などのやりとり

次に, 近所との食事や野菜などのやりとりについて検討した。表7に示すように, 菱刈町では月1, 2回やりとりする割合が最も多く, やりとりをしない, 週1, 2回がそれに次いでいる。鹿児島市では63.5%がやりとりをしないのに比べ, 著しく異なっている。これには菱刈町における地域内の良好なコミュニケーションが関連していると考えられる。

10) 食生活の満足度

最後に, 以上のような食生活を菱刈町の高齢者がどのようにとらえているかを調査した。その結果, 表8に示すように, 食事が待ち遠しいという項目を除き, いずれも高い値であった。

菱刈町の高齢者では鹿児島市に比べ, 食事が待ち遠しいと回答した割合が著しく低い。また, 足立の調査でも, 食事が待ち遠しいという割合は低かったことが報告されている³¹⁾。

これらの理由には, 菱刈町では間食をする割合が高いこと, 一般に高齢者では栄養所要量が減少することなどによると思われるが, なお検討の余地がある。

以上のように, 菱刈町の高齢者は全般的に食生活や健康に関心が高く, また規則正しく良好な食生活を営むよう努めるとともに, 強い満足感を抱いていることがうかがわれた。

4. 要 約

以上, 鹿児島県北部の農村地帯である菱刈町の高齢者の食生活について調査した。その結果を要約すると下記のようなものである。

(1) 独居25.7%, 夫婦世帯47.6%で高齢者核家族の世帯が多い。また, 男性では有配偶で夫婦世帯が, 女性では無配偶で独居が多かった。健康への心がけは, 栄養・食事, 睡眠・休養, 運動, 規則正しい生活の順であった。運動するものの割合は全国の値の2倍である。家事一般, 庭・住居の手入れ, 農業を日常の仕事にしている。また, 日常のつきあいは活発である。

(2) 食事時刻は朝昼夕とも規則正しく, 全体的に早く, 時間帯も集中している。食事に要する時間は15分から30分が最も多く, 夕食には多少時間をかけている。主食は「ごはん」がほとんどである。一緒に食事をとる人は配偶者または一人が多い。

表8 食生活の満足度(「はい」「どちらかといえばはい」の合計の割合)

	全体			菱刈町			鹿児島市		
	菱刈町 (n=187)	鹿児島市 (n=296)	有意差	男 (n=101)	女 (n=86)	有意差	男 (n=104)	女 (n=192)	有意差
おいしい	96.3%	98.6%		97.0%	95.3%		97.1%	99.5%	
食べたいものを食べている	86.1%	95.9%		83.2%	89.5%		95.2%	96.4%	
好き嫌いはない	85.6%	88.9%		85.1%	86.0%		88.5%	89.1%	
楽しい	83.4%	92.2%		84.2%	82.6%		92.3%	92.2%	
食欲がある	80.2%	91.9%		81.2%	79.1%		93.3%	91.1%	
明るい	76.5%	84.5%		82.2%	69.8%		94.2%	79.2%	
外食はしない	71.7%	87.2%	*	70.3%	73.3%		90.4%	85.4%	
待ち遠しい	35.8%	62.8%	***	37.6%	33.7%		64.4%	62.0%	

*** p<0.01, ** p<0.05, * <0.10

(3)買い物や食事を作る人は、男性では配偶者、女性では本人が多かった。買い物の頻度は週3、4回が最も多く、買い物するところはスーパーマーケットが最も多かった。

(4)食生活や栄養に対する関心は高く、特に野菜を多く食べる、海藻を週3回以上食べる、うす味にする、規則正しい食事が上位にあげられた。惣菜やインスタント食品の利用では、週1、2回、月1、2回、使わないが多かった。食事や野菜などのやりとりは活発で、月1、2回が最も多かった。

(5)食生活に対する満足の度合いは高く、食事がおいしい、食べたいものを食べている、好き嫌いはない、楽しい、食欲がある、食卓の雰囲気は明るい、外食はしない、の項目で、いずれも高い数値を示した。

なお、今回の調査では菱刈町の食生活の自給自足状況は明確に現れなかった。今後の調査で自家製食品・食品加工の状況を明らかにする必要があると思われる。また、惣菜やインスタント食品の利用が増えている背景、食事作り・買い物にみられる男女の偏りなど、残された課題は少なくない。今後の課題としたい。

なお、本調査の一部は1997年5月第14回食生活学会大会において発表した。

さいごに、本調査にあたってご協力いただきました菱刈町の関係者のみなさまに深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 総務庁統計局：平成9年5月1日現在男女・年齢階級別全国推計人口（1997）
- 2) 総務庁統計局：住民基本台帳調査（1997）
- 3) 総務庁：平成9年版高齢社会白書，大蔵省印刷局，東京，p.17（1997）
- 4) 菱刈町：第3次菱刈町総合振興計画 いきいきと輝く町ひしかり／だれもが住みたい／住みたくなるまちをめざして 基本構想／基本計画／自平成7年4月 至平成17年3月，菱刈町，鹿児島，p.18（1995）
- 5) 前掲：平成9年版高齢社会白書，p.17

- 6) 総務庁統計局：統計でみる県のすがた1997，財団法人日本統計協会，東京，p.93（1997）
- 7) 経済企画庁：平成6年版国民生活白書一実りある長寿社会に向けて，大蔵省印刷局，東京，p.66-67（1994）
- 8) 前掲：第3次菱刈町総合振興計画，p.5
- 9) 農林水産大臣官房調査課：平成8年度農業白書付属統計表，農林統計協会，東京，p.31（1997）
- 10) 前掲：第3次菱刈町総合振興計画，p.18
- 11) 同上，p.18
- 12) 鹿児島県高齢者対策課：平成7年3月末日現在市町村調査（住民基本台帳による）（1995）
- 13) 前掲：平成6年版国民生活白書，p.159
- 14) 厚生省保健医療局地域保健・健康増進栄養課生活習慣病対策室：平成9年版国民栄養の現状—平成7年国民栄養調査成績一，第一出版，東京，p.64，138（1997）
- 15) 同上，p.55，112
- 16) 同上，p.55，114
- 17) 総務庁長官官房老人対策室：高齢者の地域社会への参加に関する調査結果報告書，東京，p.7-8（1994）
- 18) 前掲：平成9年版国民栄養の現状，p.51
- 19) 東京ガス（株）都市生活研究所：現代日本人の食生活と台所—東京圏と欧米の食生活比較調査より—，東京ガス，東京，p.5，10（1994）
- 20) 同上，p.10
- 21) 厚生省保健医療局健康増進栄養課：平成6年版国民栄養の現状—平成4年国民栄養調査成績一，第一出版，東京，p.47-48（1994）
- 22) 農林水産省「食品の購買行動について」1996年7月調査，食品流通情報センター：食生活データ総合統計年報'97-'98，食品流通情報センター，東京，p.356（1997）
- 23) 東京都：東京女性白書'95，東京都情報連絡室都政情報センター管理部事業課，東京，p.37（1995）
- 24) 厚生省保健医療局健康増進栄養課：平成4年版国民栄養の現状—平成2年国民栄養調査成績一，第一出版，東京，p.48-50，154（1992）
- 25) 食糧庁「米の流通・消費に関する消費者の動向について」1995年9月調査：食生活データ総合統計年報'97-'98，p.390
- 26) 同上
- 27) 前掲：平成9年版国民栄養の現状，p.64，138
- 28) 旭化成二世帯住宅研究所「食生活と食嗜好」1996年5月調査，食生活データ総合統計年報'97-'98，p.440
- 29) 前掲：平成6年版国民栄養の現状，p.48-50
- 30) 同上，p.49-50
- 31) 足立蓉子：栄養学雑誌，46（6），273-287（1988）